

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ（GCBⅡ）									
科目名(英)										
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		中山 仁	
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		病院に作業療法士として勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生									
授業概要	価値ある自分を認識し“志”を立て行動すること、あきらめずに強く人生を生き抜くことの大切さと素晴らしさを学ぶ。 先人の生き方や言葉から“志”の立つとき、“志”とは何かを学ぶ。 先輩やクラスメートたちの考えや意識に触れ自分自身を振り返り、自分の考えや意見も伝える機会を持つ。									
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○		○		考えることの大切さを知る。				
	○	○		○		自分の言葉で伝える大切さを知る。				
	○	○		○		目標の大切さ、志の大切さを知る。				
	○	○		○		行動する大切さに気付く。				
テキスト・教材 参考図書	1. GCBⅠテキスト 2. GCBⅡテキスト									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	感謝心と思いやりについて(GCBⅠを振り返り)					教科書にて復習			
	2	グローバルシティズンと志					教科書にて復習			
	3	なぜ志を立てることが大切なのか1					教科書にて復習			
	4	なぜ志を立てることが大切なのか2					教科書にて復習			
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来～1					教科書にて復習			
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来～2					教科書にて復習			
	7	伝える力を学ぶ1					教科書にて復習			
	8	伝える力を学ぶ2					教科書にて復習			
	9	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる1					教科書にて復習			
	10	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる2(先輩の講話)					教科書にて復習			
	11	自己の大切さと責任を自覚する					教科書にて復習			
	12	伝える力を実践する1(シナリオ作り)					教科書にて復習			
	13	伝える力を実践する2(3分間スピーチ)					教科書にて復習			
	14	伝える力を実践する3(3分間スピーチ)					教科書にて復習			
	15	まとめ					教科書にて復習			
評価方法	(1)レポート 80(%) (2)発表 20(%) 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験									
	小テスト									
	宿題・レポート	◎	◎		◎		80%			
	発表・作品	◎	◎		◎		20%			
履修上の注意										

科目名	解剖学演習									
科目名(英)	Seminar for Anatomy									
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		佐藤 敦子	
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年									
授業概要	身体の基本的構造として、神経系に関する解剖学的構造の理解を図る。また、組織学の演習より組織に関する構造の理解を図る。講義形式として概要となる講義を実施した後、自ら課題を進め解剖学的構造と名称を理解し、学生間で演習を進める。各項目においてまとめテストを実施し国家試験レベルで理解度を図る。また、身体構造位置関係の総合理解として、検体解剖見学を実施する。									
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				組織の名称と構造を演習より理解し、国家試験問題で解答できる。				
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。				
	○	○				身体臓器の位置関係や名称を演習より理解する。				
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献：ネッター解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男著 南江堂									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	身体構造の理解 神経系Ⅰ 概要(中枢・末梢 神経の概要)					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	2	身体構造の理解 神経系Ⅱ 中枢神経① 脳の構造					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	3	身体構造の理解 神経系Ⅲ 中枢神経② 大脳皮質・大脳基底核					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	4	身体構造の理解 神経系Ⅳ 中枢神経③ 間脳・中脳・橋・延髄・小脳					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	5	身体構造の理解 神経系Ⅰ～Ⅳのまとめ					国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。			
	6	身体構造の理解 感覚器					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	7	身体構造の理解 脳神経・自律神経					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	8	身体構造の理解 脊髄の構造・脊髄神経					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	9	身体構造の理解 伝導路(遠心性・求心性)					構造、名称の理解を自己学習にて進める。			
	10	身体構造の理解 感覚器～伝導路までのまとめ					国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。			
	11	組織学演習①					演習にて自己学習を進める			
	12	組織学演習②					演習にて自己学習を進める			
	13	組織学演習のまとめ					確認テスト 国家試験問題にて確認			
	14	肉眼解剖学演習					検体 解剖より理解を得る			
15	解剖学演習全体のまとめ					解剖学の範囲の国家試験問題に解答できる。				
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%			
	各項目のテスト	○	○				30%			
履修上の注意										

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	坂口 博信 大津 隆一
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものに することを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実 際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実 習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形式	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献：コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	電気生理の基礎				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	4	知覚と行動(脳の仕組み)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 随意運動の反応時間				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	7	体性感覚				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	10	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	11	脳波 レポート作成				実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること	
	12	心電図				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	13	心電図 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
	14	呼吸量				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	15	呼吸量 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎	○	○		50%
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	小野 仁
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部1年						
授業概要	発達障害のリハビリテーションを実施するうえで基本となる発達過程を理解する。さまざまな発達領域における理論的枠組みとそれらが相互的に関係しあって生じる 発達の多様性を小児期を中心に学習する。また、各ライフステージにおいて、人として前向きに生きるということを考える。						
授業形式	講義： ○		演習：		実習： △	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達学の定義、関連用語を知り、人間発達学の意義を理解する。	
	○	○				発達理論の歴史とその変遷を知り、各領域の代表的な発達理論を理解する。	
	○	○				乳児期、幼児期、学童期における発達の特徴を理解する。	
	○	○		○		保育園実習で、こどもたちの安全に配慮し、こどもたちと楽しく一日過ごす。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂 編 シンプル理学療法学作業療法学シリーズ 人間発達学テキスト 南江堂 参考文献：(1)社団法人日本作業療法士協会監修：作業治療学3 発達障害、協同医書、2010 (2)上田礼子：生涯人間発達、改訂第2版 三輪書店、2012 (3)J.H.de Hass：乳児の発達―写真で見る0歳児―、医歯薬出版、1977 (4)上杉雅之：イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	人間発達とは？					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	2	発達理論とその価値観；運動発達、認知・心理発達の視点から					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	3	発達理論とその価値観；行動発達、社会的発達の視点から					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	4	運動機能の発達；体格、姿勢の発達					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	5	保育園実習					一日こどもたちと過ごすので体力が必要です。その他、準備物等は伝えますので、当日忘れないようにして下さい。
	6	保育園実習後のグループ発表					レポート作成と発表を行ってもらいます。
	7	運動機能の発達；胎児期～新生児期					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	8	運動機能の発達；胎児期～新生児期					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	9	運動機能の発達；幼児期～学童期					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	10	認知機能の発達；ピアジェの認知発達段階					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	11	認知機能の発達；ピアジェの認知発達段階					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	12	情緒の発達；乳児期～学童期のパーソナリティの発達					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	13	社会性の発達；乳児期～学童期の日常生活能力の発達					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	14	言語の発達；乳児期～学童期					Teamsで課題を出しますので提出してください。
	15	遊びの発達；乳児期～学童期					Teamsで課題を出しますので提出してください。
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。(3)毎授業後Teamsで質問を配信します。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	レポートとTeams課題の提出	○	○		○		20%
履修上の注意	※毎授業の後、理解確認のため、Teamsで質問を配信しますので、何かしらの回答をお願いします。 ※保育園実習の日程を調整が必要ですので、順番は前後する可能性があります。10月を予定しています。						

科目名	基礎医学講座Ⅱ											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	目野 昭治 中山 仁					
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	作業療法士として病院に勤務					
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年											
授業概要	・人体の構造と機能について、図や表を確認し、理解しながら覚える。 ・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。 ・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。											
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				筋の名称、位置、機能を説明することが出来る。						
	○	○				神経系の機能構造について説明できる。						
	○	○				授業内容に沿った作業療法士国家試験の問題を解答し説明することが出来る。						
	○	○				授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートの作成することが出来る。						
テキスト・教材 参考図書	教科書:1.あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 2.中村隆一、齋藤宏:基礎運動学. 医歯薬出版株式会社 3.配布オリジナル資料											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	神経系Ⅰ(神経線維・興奮伝導・シナプス・神経回路)					教科書の予習をしておく。					
	2	神経系Ⅰ(神経線維・興奮伝導・シナプス・神経回路)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	3	神経系Ⅱ(中枢神経系の構造と機能)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	4	神経系Ⅱ(中枢神経系の構造と機能)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	5	神経系Ⅲ(末梢神経:自律神経・脳神経)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	6	神経系Ⅲ(末梢神経:脊髄神経・感覚器の構造)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	7	神経系Ⅳ(伝導路)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	8	神経系まとめ					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	9	筋系Ⅰ(顔面・体幹)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	10	筋系Ⅲ(上肢の筋1)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	11	筋系Ⅲ(上肢の筋2)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	12	筋系Ⅲ(上肢の筋3)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	13	筋系Ⅲ(上肢の筋4)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	14	筋系Ⅳ(下肢の筋)					教科書の予習をしておく。 授業の範囲の復習をしておく。					
	15	まとめ					教科書の予習をしておく。 授業の範囲のノートを振り返る。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								100%
	小テスト											
	宿題・レポート											
	発表・作品											
履修上の注意												

科目名	病理学							
科目名(英)	Pathology							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	自見 至郎	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年							
授業概要	ヒトの各器官を構成する組織の基礎的働きを知り、各臓器に発生する主だった疾病の 成り立ちの機序と病態を理解する。疾病を先天異常、代謝障害、循環障害、炎症と免疫、腫瘍と大きく5項目に分類しながら、それぞれの特徴をとらえ、疾患の基礎的概 念を理解し、人に説明することができる。							
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技： ※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上で病理学において、病気の原因や病態を知り、説明できる。		
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造的、細胞学 的、免疫学的、腫瘍学的に説明できるようになる。		
	○	○				細胞の機能の理解 や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。		
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1)第5版 医学書院 参考文献：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	生物学と病理学					資料・テキストを用いて復習する。	
	2	病理学概論					資料・テキストを用いて復習する。	
	3	病気の分類					資料・テキストを用いて復習する。	
	4	細胞の損傷と適応					資料・テキストを用いて復習する。	
	5	創傷治癒					資料・テキストを用いて復習する。	
	6	循環障害概論(1)					資料・テキストを用いて復習する。	
	7	循環障害概論(2)					資料・テキストを用いて復習する。	
	8	炎症と免疫応答					資料・テキストを用いて復習する。	
	9	アレルギー概論					資料・テキストを用いて復習する。	
	10	再生医療、感染症					資料・テキストを用いて復習する。	
	11	代謝障害					資料・テキストを用いて復習する。	
	12	遺伝障害と胎児障害					資料・テキストを用いて復習する。	
	13	腫瘍概論(1)					資料・テキストを用いて復習する。	
	14	腫瘍概論(2)					資料・テキストを用いて復習する。	
	15	まとめ					資料・テキストを用いて復習する。	
評価方法	成績処理方法： (1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%	
履修上の注意								

科目名	整形外科科学											
科目名(英)	Orthopedic Surgery											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		福岡大学整形外科教室			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		医師として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年											
授業概要	整形外科の基礎知識、各種治療法、整形外科疾患について理解する。整形外科疾患とリハビリテーションとの関わりについて理解し、臨床実習で必要な知識を習得する。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				整形外科疾患に関する基礎知識について説明できる。						
	○	○				整形外科における各疾患の成り立ちや臨床像を説明できる。						
	○	○				整形外科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。						
	○	○				リハビリテーションにおいてセラピストが関わる整形外科疾患の治療実践を説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学」(最新版) 医学書院											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	整形外科概論（整形外科とは、運動器の評価及び検査法、治療法）					テキストを用いた復習					
	2	骨折 1（上肢の骨折：受傷機転、病態、治療）					テキストを用いた復習					
	3	骨折 2（体幹・下肢の骨折：受傷機転、病態、治療）					テキストを用いた復習					
	4	脊髄損傷					テキストを用いた復習					
	5	関節における外傷性疾患（捻挫(TFCC)、脱臼（肩・肘・股関節など）					テキストを用いた復習					
	6	末梢神経における外傷性疾患 1（外傷性疾患各論）					テキストを用いた復習					
	7	末梢神経における外傷性疾患 2（絞扼性神経障害・その他）					テキストを用いた復習					
	8	腱・靱帯における外傷性疾患（筋・腱・靱帯の概論、腱板断裂、手の腱損傷）					テキストを用いた復習					
	9	スポーツ障害（スポーツ障害の概論、急性・慢性のスポーツ外傷）					テキストを用いた復習					
	10	熱傷、切断と離断（熱傷の病態、治療、切断・離断の原因、部位、義肢、その他）					テキストを用いた復習					
	11	先天性骨・関節疾患（代表的な疾患とその特徴）					テキストを用いた復習					
	12	循環障害と壊死性疾患（骨壊死、骨端症など）					テキストを用いた復習					
	13	骨・軟部腫瘍					テキストを用いた復習					
	14	神経・筋疾患（脳性麻痺、神経麻痺）					テキストを用いた復習					
	15	脊椎の疾患（脊柱の変形、奇形、椎間板ヘルニア）					テキストを用いた復習					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								100%
履修上の注意												

科目名	内科学										
科目名(英)	Internal medicine										
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	眞崎 義憲				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年										
授業概要	即臨床に役立つ内科の基礎を学びます。講義の内容はほぼガイダンスに従いますが、随時最新医学情報を取り入れます。										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○				各疾患の特徴や病気の成り立ちを理解することができる。					
	○					医療現場の実情や新しい知見を知ることができる。					
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	診断と治療・症候学					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	2	循環器疾患 総論					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	3	循環器疾患 各論1					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	4	循環器疾患 各論2					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	5	呼吸器疾患 総論					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	6	呼吸器疾患 各論1					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	7	呼吸器疾患 各論2					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	8	消化器疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	9	肝胆膵疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	10	代謝性疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	11	腎・泌尿器疾患総論					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	12	腎・泌尿器疾患各論					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	13	血液・造血器疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	14	膠原病・アレルギー疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
	15	感染症疾患					学習した疾患について復習して理解を深めること				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%				
履修上の注意	居眠り学生には厳しく対応します。発表するときは大きな声でお願いします。国試対策として小問題プリントを行います。										

科目名	神経内科学Ⅰ						
科目名(英)	Neurological MedicineⅠ						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	井本理美
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院・デイケアにて作業療法士として勤務
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	神経内科における基礎知識や各種疾患における特徴や評価などについて学ぶ。 神経内科疾患についてイメージ出来る。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科における関連基礎知識を学び、具体的に説明・解説することが出来る。	
	○	○				各疾患・症状について特徴などを最低3つは記述出来る。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学:医学書院 PT・OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版 病気が見える⑦脳・神経 第2版:メディックメディア						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	神経内科疾患を知る(DVD鑑賞)				神経内科疾患をいくつか事前に調べる	
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学①				神経内科に関与する解剖・生理・病理学について事前学習	
	3	神経内科に必要な生理、病理、解剖学②				神経内科に関与する解剖・生理・病理学について予習・復習	
	4	小テスト1／運動路について(錐体路)				2～3回目授業内容について復習	
	5	運動の調節(中枢性麻痺と末梢性麻痺)				脳神経について予習・復習	
	6	感覚路、検査方法				神経内科の対象疾患における検査方法について事前学習	
	7	自律神経・末梢神経				自律・末梢神経に関して事前学習・復習	
	8	小テスト2／反射について				5～7回目授業内容について復習 反射について事前学習	
	9	脳神経(前編)				脳神経について予習・復習	
	10	脳神経(後編)				脳神経について予習・復習	
	11	小テスト3／国家試験解説				9～10回目授業内容について復習	
	12	錐体外路と不随意運動・小脳の運動調節				各種症状について事前学習・復習	
	13	高次脳機能障害1(主な、失認/失語/失行)				各種症状について事前学習・復習	
	14	高次脳機能障害2(その他/認知症)				各種症状について事前学習・復習	
	15	小テスト4／まとめ／国家試験解説				まとめ	
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				40%
履修上の注意							

科目名	小児科学						
科目名(英)	pediatrics						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	平田 由起
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	小児の体、発達について理解し、小児リハビリテーションに関わる医学的知識を身につける。生命の不思議な働きを発表形式で学習します。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		△		作業療法士にとって必要な小児疾患の基本的知識を習得し、小児のリハビリテーションに応用することができる。	
テキスト・教材 参考図書	理学療法学 作業療法学専門基礎分野 小児科学:医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	小児科学概論				教科書で復習すること	
	2	新生児・未熟児疾患・先天異常と遺伝病				教科書で復習すること	
	3	神経・筋・骨系疾患				教科書で復習すること	
	4	循環器疾患				教科書で復習すること	
	5	呼吸器疾患				教科書で復習すること	
	6	感染症				教科書で復習すること	
	7	消化器疾患				教科書で復習すること	
	8	内分泌・代謝疾患				教科書で復習すること	
	9	免疫・アレルギー・膠原病				教科書で復習すること	
	10	腎・泌尿器系・生殖器系・腫瘍性疾患				教科書で復習すること	
	11	心身症・神経症・重症心身障害児				教科書で復習すること	
	12	眼科・耳鼻科的疾患				教科書で復習すること	
	13	まとめ				教科書で復習すること	
	14	まとめ				教科書で復習すること	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○		○		80%
	小テスト	○	○				10%
	レポート	○	○		○		10%
履修上の注意	①授業中学生さんには質問しますので大きな声で答えて下さい。 ②グループ形式でテーマを発表してもらいます。 ③居眠り学生は退席させます。④国試対策として小問題プリントを行います。						

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical Psychology						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	富永 明子	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年						
授業概要	こころの問題を抱えた人やその家族についての理解と援助の方法を研究・実践する臨床心理学について、基礎的な知識・技法を学習し理解する。また、卒業後の現場において臨床心理学の知識を活かしていけるために、他者とのかかわりや自分自身についての思考・感情・言動をふり返り、理解する視点をもつ機会とする。						
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				心理アセスメント(知能検査、性格検査、適性検査)を列挙できる。	
	◎	◎				発達および人格理論の種類と概要を説明できる。	
	◎	◎				各種心理療法の種類とその概要を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」川瀬正裕・松本真理子・松本英夫(著)ナカニシヤ 出版 参考文献：「はじめて学ぶ人の臨床心理学」杉原一昭監修 渡邊映子・勝倉孝治編集 中央法規出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	臨床心理学とは				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	2	人格理論①：精神分析理論、分析的心理学				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	3	人格理論②：自己理論、自己愛理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	4	発達理論①：分離一個体化理論、対象関係論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	5	発達理論②：漸成発達理論				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	6	心理アセスメント①：アセスメントとは、発達検査、知能検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	7	心理アセスメント②：人格検査(質問紙法)				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	8	心理アセスメント③：人格検査(投影法)、その他の検査				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	9	心理療法①：基本的態度、クライエント中心療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	10	心理療法②：精神分析療法、分析的心理療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	11	心理療法③：遊戯療法、芸術療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	12	心理療法④：森田療法、家族療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	13	心理療法⑤：行動療法、認知行動療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	14	心理療法⑥：自律訓練法、集団精神療法				教科書の該当箇所を最低一回は復習として読んでおくこと	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	精神医学Ⅰ											
科目名(英)	PsychiatryⅠ											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		諸江 健二			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		医師として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年											
授業概要	① 精神機能や精神疾患についての理解 ② 精神疾患の症状や治療・福祉などについて理解する											
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				精神機能や精神疾患について説明できる。						
	○	○				精神疾患の症状や治療・福祉などについて説明できる。						
テキスト・教材 参考図書	上野武治 著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学:医学書院											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	三大精神病と3つの成因					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	2	精神機能の評価(1)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	3	精神機能の評価(2)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	4	統合失調症(1)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	5	統合失調症(2)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	6	統合失調症(3)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	7	感情障害(1)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	8	感情障害(2)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	9	神経症性障害(1)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	10	神経症性障害(2)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	11	摂食障害、行動の問題、性の障害					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	12	人格の障害とDSM、ICD診断基準(1)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	13	人格の障害とDSM、ICD診断基準(2)					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
	14	これまでのまとめ					まとめプリントを使用して復習しておくこと。 教科書で予習しておく。					
15	定期試験											
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								100%
履修上の注意												

科目名	臨床医学講座Ⅰ									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	中山 仁			
実施年度	2021年度		実施時期	後期		実務家教員 担当科目	作業療法士として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年									
授業概要	臨床医学の中で整形外科をはじめ、神経内科学や精神医学を中心に、国家試験の該当問題を解答できるよう知識を身につける。									
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○		○		整形外科の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる				
	○	○		○		神経内科学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる				
	○	○		○		精神医学の疾患について、説明することや国家試験の問題を解答できる				
テキスト・教材 参考図書	教科書：1. 病気がみえる①運動器・整形外科。 2. ②. 病気がみえる②循環器 3. . 病気がみえる⑦脳・神経 4. オリジナル資料									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション 整形、神経内科、精神科の疾患の概要					教科書の予習をしておく。			
	2	整形外科 1)骨折 上肢 前腕 手指					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	3	整形外科 2)骨折 体幹 下肢 足趾					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	4	整形外科 2)関節リウマチ RA					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	5	整形外科 2)関節リウマチ OA					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	6	整形外科 3)脊髄損傷 脊椎損傷					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	7	整形外科 3)脊髄損傷 脊髄損傷					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	8	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳出血					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	9	神経内科学 1)CVA(脳血管障害) 脳梗塞					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	10	神経内科学 2)パーキンソン病 概要					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	11	神経内科学 2)パーキンソン病 評価、治療など					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	12	神経内科学 3)筋萎縮性側索硬化症					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	13	精神医学 1)統合失調症					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	14	精神医学 2)感情・気分障害(うつ病/躁うつ病)					教科書の予習及び復習をしておく。 小テスト			
	15	国家試験問題 まとめ					総合的理解の復習、解釈を行う。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%			
	小テスト	◎	◎				20%			
履修上の注意	※その他の参考文献は、授業内資料でその都度提示していく。									

科目名	リハビリテーション概論Ⅱ											
科目名(英)	Introduction to RehabilitationⅡ											
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		安部 剛敏			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		作業療法士として病院勤務			
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生											
授業概要	リハビリテーション関連職種の役割を学び、各分野によってどのようなチームアプローチがなされているのかを知る。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				各専門職と役割について説明できる						
	○	○				各リハビリテーションの分野・領域における専門職の役割を説明できる						
	○	○				チームアプローチについて説明できる						
テキスト・教材 参考図書	教科書：セラピストのための概説リハビリテーション(文光堂) 参考文献：PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論-要点整理と用語解説(診断と治療社)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	リハビリテーションに関連する専門職					教科書の予習をしておく。					
	2	作業療法士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	3	理学療法士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	4	言語聴覚士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。					
	5	医師(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	6	看護師(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	7	義肢装具士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	8	介護福祉士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。					
	9	医療ソーシャルワーカー(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	10	臨床心理士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	11	精神保健福祉士(役割と独自性)					教科書の予習をしておく。					
	12	身体障害分野でのチームアプローチの実際					教科書の予習をしておく。 小テストを実施する。					
	13	精神障害分野でのチームアプローチの実際					教科書の予習をしておく。					
	14	発達障害分野でのチームアプローチの実際					教科書の予習をしておく。					
	15	まとめ					教科書の予習をしておく。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)レポートを1回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		◎								80%
	レポート	◎		◎								20%
履修上の注意	授業計画は変更になることがあります。事前に連絡致します。											

科目名	作業療法評価学Ⅰ									
科目名(英)	Introduction to OT AssessmentⅠ									
単位数	1単位			時間数	30時間		担当者	老川 良輔		
実施年度	2021年度			実施時期	後期		担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生									
授業概要	リハビリテーションにおける評価とは何かを学習する。その中でも、面接・観察、その記録方法の概要を学習する。作業に焦点を当てた評価ツールを用いて、作業療法における面接・観察の視点を学習する。									
授業形式	講義：○		演習：○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○					作業療法における評価の視点を説明できるようになる。				
			○	○		作業療法面接評価であるCOPM・OSA-Ⅱを使用し、作業上の問題を聞き出せるようになる。				
			○	○		作業療法観察評価であるACIS・AMPSを用いて観察視点を増やすことができる。				
	○	○				人の作業上の問題が生じている理由を、人間作業モデルの枠組みを使って説明することができる。				
	○				各評価の名称、対象、目的、使用方法を理解することができる					
テキスト・教材 参考図書										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	評価の意味と目的・・・作業療法評価とは何のために行うのか？					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	2	面説について 観察について					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	3	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM概要)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	4	対象者の作業上の問題を知るための評価①(COPM実施方法と演習)					小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと			
	5	COPM評価演習					COPMの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと			
	6	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA概要)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	7	対象者の作業上の問題を知るための評価②(OSA実施方法と演習)					小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと			
	8	OSA評価演習					OSAの評価演習を行うため、授業資料を準備しておくこと			
	9	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS概要)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	10	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS運動技能項目と演習)					小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと			
	11	対象者の作業遂行の質を知るための評価(AMPS処理技能項目と演習)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	12	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS概要)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	13	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS技能項目)					小テストを実施するため、授業資料で復習して、小テストの準備を行うこと			
	14	対象者のコミュニケーションと交流技能を知るための評価(ACIS演習)					まとめプリント/Classiを使用して復習しておくこと			
	15	授業全体のまとめ					全てのテキスト/資料/自分の作成したレポートを用意しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する。(2)レポートを2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験									
	小テスト		◎				40%			
	レポート	◎		◎	○		60%			
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	見学実習									
科目名(英)	Clinical tour training									
単位数	1単位			時間数	45時間		担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者		
実施年度	2021年度			実施時期	後期		担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年									
授業概要	見学実習は、臨床実習指導者の指導の下、作業療法士としての心構えと基礎知識や作業療法実践の思考過程を臨床の場で体験し、学習することである。									
授業形式	講義：			演習：		実習： ○	実技： ○	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○			○		社会人・職業人としての態度を修得できる。				
		○		○		多職種連携における作業療法部門の役割と特色を理解でき、多職種の役割についても理解できる。				
		○	○	○		多くの作業療法実践場面を見学し、その臨床思考過程を聞いて理解できる。				
		○		○		見学実習で得た知識や経験を他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。				
テキスト・教材 参考図書	1) 見学実習ガイダンス									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	・見学実習事前セミナー：2022年1月31日～2月12日（土） 実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。 見学実習に必要な知識・技術について講義等を実施する。								
	2									
	3									
	4									
	5									
	6	・見学実習：2022年2月14日～2月21日（土） ※施設の就業規定に応じて1週間実施(5日/週を基本とする)								
	7	・見学実習事後セミナー：2022年2月28日～3月5日（土） 各施設で学んだことを共有するグループワークと実習内容の発表を実施する。 見学実習提出課題について担当教員よりフィードバックを受ける。								
	8									
	9									
	10									
	11									
	12									
	13									
	14									
15										
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習教育指導者による採点と学校への提出物、実習後セミナーでの症例発表などを総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%			
	提出課題		◎		◎		20%			
	発表		◎		◎		20%			
履修上の注意										

科目名	運動学Ⅱ										
科目名(英)	KinesiologyⅡ										
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	大内田 由美				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院に作業療法士として勤務				
対象学科・学年	作業療法学科 昼間部 1年生										
授業概要	・運動に関する身体の構造と機能の関係を理解する。(各関節の構造と機能、歩行) ・運動学で得た知識を用いて運動障害の分別ができるようになる。(変形、異常歩行) ・運動の学習について理解する。(運動学習)										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				関節の運動を関節包内運動やバイオメカニクスの知識を用いて説明できる。					
	○	○				運動器疾患でみられる典型的な症状を正常な運動と比較し説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一・齋藤宏・長崎浩:基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版 2)嶋田智明・平田総一郎 監訳:筋骨格系のキネシオロジー. 医歯薬出版 3)配布資料 参考文献: 1)山崎敦:運動学. 羊土社 2)I A Kapandji (荻島秀男監訳):カパンディ関節の生理学. 医歯薬出版 3)PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	肩関節の構造と機能(上肢帯、肩甲上腕関節、胸鎖関節、肩鎖関節) 肩関節の構造と機能(烏口鎖骨間メカニズム、肩甲胸郭関節、第2肩関節)					資料・テキストを用いて復習				
	2	肩関節の臨床運動学 肘関節・前腕の構造と機能					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	3	肘関節・前腕の臨床運動学 手関節の構造と機能					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	4	手関節の臨床運動学 手指の構造と機能					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	5	手指の臨床運動学 手指の変形機序					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	6	上肢のまとめ 股関節の構造と機能(関節の構造、靱帯、関節の運動)					資料・テキストを用いて復習				
	7	股関節の構造と機能(股関節の安定に関与する因子) 股関節の臨床運動学					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	8	膝関節の構造と機能(関節の構造、膝蓋骨、関節半月、靱帯) 膝関節の構造と機能(関節の運動)					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編を用いて復習				
	9	膝関節の臨床運動学 足関節・足部の構造と機能					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	10	足関節・足部の臨床運動学 足の変形					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	11	体幹の構造と機能 体幹の臨床運動学					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	12	下肢のまとめ 正常歩行(歩行周期)					資料・テキストを用いて復習				
	13	正常歩行(歩行の決定因、床反力、歩行時筋活動) 異常歩行					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
	14	運動学習(運動能力、学習の転移、運動パフォーマンス、運動技術、動機づけ) 運動学習(運動学習理論、運動療法で展開される運動学習の戦略)					資料・テキストを用いて復習				
	15	全体のまとめ					PT・OT基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編・復習テストを用いて復習				
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎	◎				80%				
	小テスト	◎	◎				20%				
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											